

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月13日
【四半期会計期間】	第38期第3四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	日本和装ホールディングス株式会社
【英訳名】	NIHONWASOU HOLDINGS, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 道面 義雄
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木六丁目2番31号
【電話番号】	03 - 5843 - 0097（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 鶴野 尚史
【最寄りの連絡場所】	東京都港区六本木六丁目2番31号
【電話番号】	03 - 5843 - 0097（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 鶴野 尚史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第3四半期連結 累計期間	第38期 第3四半期連結 累計期間	第37期
会計期間	自 2022年1月1日 至 2022年9月30日	自 2023年1月1日 至 2023年9月30日	自 2022年1月1日 至 2022年12月31日
売上高 (千円)	3,544,412	3,325,047	4,770,320
経常利益 (千円)	288,498	200,417	392,173
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	156,699	100,932	236,706
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	177,615	112,349	245,893
純資産額 (千円)	3,356,682	3,419,456	3,397,763
総資産額 (千円)	8,874,550	9,161,844	8,803,548
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	17.29	11.13	26.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	37.8	37.3	38.6

回次	第37期 第3四半期連結 会計期間	第38期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	3.10	2.78

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当該事業に携わっている主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が収束しつつある中、人流及びインバウンドの増加により社会経済活動の正常化が徐々に進み、緩やかな回復傾向がみられています。しかしながら、不安定な国際情勢の長期化、エネルギー価格や原材料価格の高騰、世界的に進む政策金利の見直しによる金融資本市場の変動リスク等があり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社においては、受講料無料のきもの着付け教室を毎年春と秋に開講しておりますが、この夏、初めて本格展開いたしました新規受講者対象の「夏の着付け教室」が好評を博し、400名を超える新規顧客の獲得が実現いたしました。また、8月より新イメージキャラクターに吉瀬美智子さんを採用し、秋の受講者募集を行いました。今期は、SNSやネット広告を活用し、新規顧客獲得に向けて、様々な角度から集客のアプローチを行っております。

イベント等においては、毎年恒例の「きものプリリアンツ全国大会」を8月に帝国ホテル東京にて開催いたしました。2日間でのべ1,000名以上のお客様にご参加いただき、過去最多の来場者数を達成し、受注は好調に推移いたしました。その他にも、本年創業40周年を迎えた当社と創刊70周年を迎えた婦人画報の雑誌「美しいキモノ」とのコラボ企画「ニッポンきもの総選挙」を8月下旬より開催しております。「美しいキモノ」のバックナンバーより編集長厳選20冊の表紙の中から当社のお客様（卒業生）が投票を行い、表紙No1を決める企画となっております。本イベントにきもんでご来場された方には、プロのカメラマンが撮影した写真をお渡しし、更にはその中より選ばれた方は「美しいキモノ」に写真が掲載されるなどの特典もご用意いたしました。貴重な特典に多くのお客様より喜びの声をいただいております。しかしながら一方で、足元では円安や物価高が進行し、お客様の消費マインドの冷え込み等による買い控えの影響により売上高が減少いたしました。また、利益面では、経費節減等に努めましたが、減収に伴う減益となりました。

このような状況の中、当社グループといたしましては、今後も継続して教室に通っていただけるようフォローアップ体制を盤石にし、顧客数の獲得に注力してまいります。また、新たな販売チャネルとして今冬のリリースに向けて準備を進めているEC事業では、これまで当社グループが手掛けてこなかった浴衣や洗えるきもの、手軽でリーズナブルな和装品の販売を行い、当社メインブランドよりも低年齢層となる20代から40代をターゲットとして市場や新規顧客を獲得してまいります。将来的には、オリジナル商品の開発や、和に関わる幅広いコンテンツの展開も予定しており、ECサイトをきっかけとし、当社の販売仲介をご利用いただけるような仕組みの確立を目指してまいります。今後も、引き続き当社のビジネスモデルの要である受講料無料のきもの着付け教室運営を軸として様々なイベントを展開し、業績の向上に努めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績につきましては、売上高3,325百万円（前年同四半期比6.2%減）、営業利益236百万円（前年同四半期比20.0%減）、経常利益200百万円（前年同四半期比30.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益100百万円（前年同四半期比35.6%減）となりました。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は8,839百万円となり、前連結会計年度末に比べ397百万円増加いたしました。これは主に割賦売掛金が503百万円増加した一方で、その他が129百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は322百万円となり、前連結会計年度末に比べ39百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産が11百万円及び投資その他の資産が29百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、9,161百万円となり、前連結会計年度末に比べ358百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は3,394百万円となり、前連結会計年度末に比べ127百万円増加いたしました。これは主に契約負債が83百万円増加したこと等によるものであります。固定負債は2,347百万円となり、前連結会計年度末に比べ209百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が208百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、5,742百万円となり、前連結会計年度末に比べ336百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は3,419百万円となり、前連結会計年度末に比べ21百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益100百万円、剰余金の配当90百万円、為替換算調整勘定の増加7百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は37.3%（前連結会計年度末は38.6%）となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針、経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因について重要な変更はありません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの資本の財源及び資金の流動性についての分析について重要な変更はありません。

(8) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,000,000
計	33,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,134,000	9,134,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	9,134,000	9,134,000	-	-

(注) 普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	9,134,000	-	478,198	-	354,973

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 68,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,058,800	90,588	-
単元未満株式	普通株式 6,800	-	-
発行済株式総数	9,134,000	-	-
総株主の議決権	-	90,588	-

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本和装ホールディングス株式会社	東京都港区六本木 六丁目2番31号	68,400	-	68,400	0.75
計	-	68,400	-	68,400	0.75

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,809,453	2,817,278
営業未収入金	157,875	187,050
割賦売掛金	4,958,211	5,461,657
棚卸資産	113,262	111,868
その他	474,242	344,961
貸倒引当金	71,182	83,277
流動資産合計	8,441,862	8,839,539
固定資産		
有形固定資産	144,432	133,031
無形固定資産	13,558	14,969
投資その他の資産	203,694	174,304
固定資産合計	361,685	322,304
資産合計	8,803,548	9,161,844
負債の部		
流動負債		
営業未払金	31,653	43,036
短期借入金	1, 2 2,384,778	1, 2 2,359,104
未払法人税等	48,955	25,204
契約負債	315,605	399,007
営業預り金	18,367	38,588
その他	467,851	529,817
流動負債合計	3,267,213	3,394,758
固定負債		
長期借入金	2 2,129,314	1, 2 2,337,355
関係会社事業損失引当金	3,098	4,273
その他	6,159	6,000
固定負債合計	2,138,571	2,347,628
負債合計	5,405,784	5,742,387
純資産の部		
株主資本		
資本金	478,198	478,198
資本剰余金	292,211	292,211
利益剰余金	2,638,521	2,648,798
自己株式	22,629	22,629
株主資本合計	3,386,302	3,396,578
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	3,180	917
為替換算調整勘定	14,642	21,960
その他の包括利益累計額合計	11,461	22,877
純資産合計	3,397,763	3,419,456
負債純資産合計	8,803,548	9,161,844

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	3,544,412	3,325,047
売上原価	290,160	292,866
売上総利益	3,254,251	3,032,180
販売費及び一般管理費	2,957,840	2,795,185
営業利益	296,411	236,995
営業外収益		
受取利息	812	1,452
助成金収入	6,717	2,248
為替差益	12,821	-
固定資産売却益	-	1,345
その他	1,160	772
営業外収益合計	21,511	5,819
営業外費用		
支払利息	18,700	18,943
支払手数料	10,451	10,523
契約解約損	-	12,775
その他	271	154
営業外費用合計	29,424	42,396
経常利益	288,498	200,417
特別損失		
関係会社事業損失引当金繰入額	-	3,416
特別損失合計	-	3,416
税金等調整前四半期純利益	288,498	197,000
法人税、住民税及び事業税	95,533	79,990
法人税等調整額	36,265	16,077
法人税等合計	131,799	96,068
四半期純利益	156,699	100,932
親会社株主に帰属する四半期純利益	156,699	100,932

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	156,699	100,932
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	750	4,098
為替換算調整勘定	20,165	7,317
その他の包括利益合計	20,916	11,416
四半期包括利益	177,615	112,349
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	177,615	112,349

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 当社グループにおいては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行 8 行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (2023年 9 月30日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	1,980,000千円	2,980,000千円
借入実行残高	240,000	890,000
差引額	1,740,000	2,090,000

2 財務制限条項

前連結会計年度 (2022年12月31日)

当社グループの一部の借入金1,700,028千円 (1年内返済予定の長期借入金を含む) について、純資産及び利益等に関する一定の条件の財務制限条項が付されております。

当第 3 四半期連結会計期間 (2023年 9 月30日)

当社グループの一部の借入金1,800,048千円 (1年内返済予定の長期借入金を含む) について、純資産及び利益等に関する一定の条件の財務制限条項が付されております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 3 四半期連結累計期間に係る減価償却費 (のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。) は、次のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2023年 1 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
減価償却費	23,997千円	19,912千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年2月14日 取締役会	普通株式	63,459	7	2021年12月31日	2022年3月14日	利益剰余金
2022年5月13日 取締役会	普通株式	27,196	3	2022年3月31日	2022年6月20日	利益剰余金
2022年8月12日 取締役会	普通株式	27,196	3	2022年6月30日	2022年9月12日	利益剰余金

(注) 2022年2月14日取締役会決議による1株当たり配当額については、記念配当1円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月11日 取締役会	普通株式	27,196	3	2022年9月30日	2022年12月12日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月14日 取締役会	普通株式	36,262	4	2022年12月31日	2023年3月13日	利益剰余金
2023年5月12日 取締役会	普通株式	27,196	3	2023年3月31日	2023年6月12日	利益剰余金
2023年8月14日 取締役会	普通株式	27,196	3	2023年6月30日	2023年9月11日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月13日 取締役会	普通株式	27,196	3	2023年9月30日	2023年12月11日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであり、主要な顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
販売仲介手数料	2,220,440	2,068,285
和服及び和装品販売	738,795	686,444
縫製加工	488,796	466,359
その他	25,211	23,215
顧客との契約から生じる収益	3,473,244	3,244,305
その他の収益	71,167	80,741
外部顧客への売上高	3,544,412	3,325,047

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	17円29銭	11円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	156,699	100,932
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	156,699	100,932
普通株式の期中平均株式数(株)	9,065,600	9,065,600

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2023年8月14日開催の取締役会において、次のとおり第2四半期配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額.....27,196千円

1株当たりの金額.....3円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2023年9月11日

(注) 2023年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

2023年11月13日開催の取締役会において、次のとおり第3四半期配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額.....27,196千円

1株当たりの金額.....3円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2023年12月11日

(注) 2023年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

日本和装ホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

福岡事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

伊藤 次男

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

照屋 洋平

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本和装ホールディングス株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本和装ホールディングス株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。